

2022年10月17日

各 位

会 社 名 株式会社SANKYO
 代 表 者 名 代表取締役 石原明彦
 社 長
 (コード番号 6417 東証プライム)
 問 合 せ 先 常務執行役員 高橋博史
 管理本部長
 (TEL. 03-5778-7777)

第2四半期業績予想の公表及び通期業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、未公表としていた2023年3月期第2四半期累計期間の業績予想を下記のとおり公表いたします。また、2022年5月12日に公表した2023年3月期の業績予想を下記のとおり修正いたしましたので、お知らせします。

記

[2023年3月期 第2四半期(累計)連結業績予想]

(2022年4月1日～2022年9月30日)

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 四半期純利益	1株当たり 四半期純利益(円)
前回発表予想 (A)	—	—	—	—	—
今回修正予想 (B)	69,000	26,000	26,000	20,000	344.36
増減額 (B-A)	—	—	—	—	—
増減率 (%)	—	—	—	—	—
(ご参考) 前期第2四半期実績 (2022年3月期第2四半期)	28,061	2,914	3,409	4,575	74.70

[2023年3月期第2四半期(累計)連結業績予想の開示理由]

当社グループは事業計画を年次で管理しており、通期業績予想のみ開示しておりますが、主力のパチンコ・パチスロ遊技機の販売が好調に推移していることから通期業績予想の見直しを行うにあたり、第2四半期の着地見込みがまとまりましたので、今般業績予想として公表を行うものであります。2022年3月期に販売したパチンコ機「フィーバー機動戦士ガンダムユニコーン」が好評で当第2四半期においても追加販売を行ったほか、「フィーバー戦姫絶唱シンフォギア3 黄金絶唱」をはじめとする新機種の販売も好調に推移したことから、パチンコ機販売台数は144千台(前年同期は60千台)となるほか、パチスロ機販売台数も10千台(前年同期は2千台)と順調に推移し、前年同期比で大幅な増収増益となる見通しです。投資有価証券売却益の計上もあり、親会社株主に帰属する四半期純利益は20,000百万円と期初に公表した通期業績予想の水準に達する見通しです。

[2023年3月期 通期連結業績予想数値の修正]

(2022年4月1日～2023年3月31日)

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益(円)
前回発表予想 (A)	110,000	29,000	29,500	20,000	344.40
今回修正予想 (B)	135,000	45,000	46,000	35,000	602.71
増減額 (B-A)	25,000	16,000	16,500	15,000	—
増減率 (%)	22.7	55.2	55.9	75.0	—
(ご参考) 前期実績 (2022年3月期)	84,857	21,357	22,257	18,466	305.06

[2023年3月期通期連結業績予想修正の理由]

2022年3月期に販売したパチンコ機「フィーバー機動戦士ガンダムユニコーン」、「新世紀エヴァンゲリオン～未来への咆哮～」がパチンコパーラー及びファンからの高い支持を得てロングラン稼働となり、当社グループのブランド力向上により販売が好調に推移していることから、パチンコ機販売台数を期初計画の210千台から250千台（前期は164千台）に見直します。パチスロ機につきましても、2022年7月に投入した「パチスロアクエリオン ALL STARS」を皮切りに6.5号機の販売を推進することに加え、メダルレスで遊技が可能となる次世代パチスロ機“スマートパチスロ”第一弾「L 革命機ヴァルヴレイヴ」投入などにより販売台数を期初計画の30千台から40千台に見直します（前期は22千台）。

この結果、売上高は期初計画を2割強上回る135,000百万円（前期比59.1%増）を見込み、電子部品の調達難によるコストアップ等を、増収効果や部品リサイクル等によるコストダウンで吸収し、営業利益についても期初計画を5割強上回る45,000百万円（前期比110.7%増）となる見通しです。

※上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後の様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

以 上